

立

二年
 筆順 1 ヲ立立
 オン リツ・リユウ
 クン た 11 つ 11 てる

成り立ち



ひとがりようてとりようあしをひろげて、ちじように「だつ」すがたをあらわしたもので、「だつ」といういみをあらわした字です。

「人が「だつ」ことにかぎらず、「いえが「だつ」というばあいにもつかい、「いえを「たてる」というようにもつかいます。

また、「日がたつ（すぎていく）」というばあいや、「いでたつ（はじまる）」といういみにもつかわれます。

使い方

▽立ったままで食べる。立食パーティーは、だれでもじゆうにかいわができてよいものです。

▽お寺を立てるばあいは、とくに「建立」ということはをつかいます。

▽学校の創立きねんぴは四月十日です。

▽建立（建も立も「たてる」といういみ。ぶつきょうでは、ふるい音の呉音をつかうしゆうかんがあるのでこうよみます。ふつうは「建築」といいます。）

▽立春（春がはじまる日。せつぶんのつぎの日で二月四日ごろです。）

▽創立（はじめて設立すること。）

▽独立（「独りで立つ」ということで、よそにたよらず、また、そくばくされず、しはいされぬこと。）

▽立案（けいかくを立てること。けいかくをぶんしようにかきあげること。）

▽立身（身を立てること。がくもん、しゆうようにどりよくして、じんかくをかんせいすること。りっぱなひとになること。）

力

二年
 筆順 2
 オン リキ・リヨク
 クン ちから

成り立ち



「腕」のかたちをあらわした字で「腕の力（腕力）」をあらわしたものです。むかしは、腕力はたいそうひつような力でしたから、この字で「ちから」といういみをあらわしたのでしよう。

「体」の力（体力）、「知恵」の力（知力）、そのほか、「気力」「権力」など、いろいろな力のいみにつかいます。また、「力をつくす（つとめる）」といういみにもつかわれます。

「リキは呉音で、リヨクは漢音。「強力」は「強力」と「強い力」という意味だが、「強力」だと「登山の案内人」の意味の言葉である。」

使い方

▽みかたに「力持ち」がいるので、とても「力強い」とです。

▽あの人は「能力」はあるのだが、「気力」がたりないのでせいこうできないでいる。

▽力持ち（「つよい力をもつ」といういみで、「力がつよいこと」。また「力がつよい人」のことです。）

▽力強い（「力が強い」ということから「たよりになる」といういみにつかわれます。）

▽能力（能は「できる」こと。しごとができる力。やればできるという力のことです。）

▽気力（「気もちのつよさ」で、「ものごとをなしとげようとする気もち」のことをいいます。意志の力）

▽精力（しごとをなしとげるのにひつような力で、からだをじつさいにはたらかせる力）

▽力作（力をつくしてものを作ること。また、力をつけて作った「作品」のこと。）

▽力説（力をつくして説明すること。わかってもらいうために、力のかぎり説くこと。）